e-Learning 科目の科目学修到達目標並びに課題　　学科・専攻【　　学部共通　　】　科目【　文化創造基礎（英語）　】

No	テーマ	学修到達目標	内　容	課題
(例)	インストラクショナルデザイン	・インストラクショナルデザインとは何か説明できる。 ・ADDIE モデルについ事例をあげて説明できる。 ・カークパトリックの４段階評価モデルについて事例をあげて説明できる。	(1)インストラクショナルデザインとは (2)教材開発とインストラクショナルデザイン (3)授業設計のプロセス ・ADDIE モデル (4) カークパトリックの４段階評価モデル	(1) カークパトリックの４段階評価モデルについて、各段階における評価方法には何があるかグループで考察しなさい。 (2) 授業設計のプロセスにおける ADDIE モデルについて、各プロセスの内容を、具体的に授業を設計する場面を当てはめなさい。
第１講	英語学習の目的	・今までの英語学習の経験を整理し、その効果について説明できる。 ・英語学ぶ意義について、コミュニケーションの観点から説明できる。	（1）　英語学習のその目的 （2）　第二言語と第二外国語 （3）　GDP と英語学習	（1）　今までの英語学習経験についてとその効果についてグループで考察しなさい。 （2）　第二言語と第二外国語の定義について調べなさい。
第２講	社会で求められている英語力	・使用する言語人口や、外国人の数をもとに言語の役割を説明できる。 ・国としての取り組みについて、例を挙げて説明できる。	（1）　企業が求める人材 （2）　文部科学省の取り組み （3）　大学卒業時の英語力	（1）　外国人労働者が閉める割合について調べ交流しなさい。 （2）　「『英語が使える日本人』の育成」の内容を整理しなさい。
第３講	第二言語習得論	・対照分析仮説をもとに、日本人が外国語を学ぶ難しさについて説明できる。 ・第二言語習得研究における中間言語の役割を説明でき	（1）アジアの中の日本の英語力 （2）言語間の距離	（1）各種英語検定について調べ、外部試験結果をもとに、日本の英語力をアジア圏の国と比較しなさい。

		る。		(2) 目的言語のアウトプットまでにどんなことが起きているか、例をもとにグループで話し合いなさい。
第４講	第二言語の認知プロセス	・第二言語習得の４つのプロセスについて説明できる。 ・学習成果に影響を与える要因について例を挙げて説明できる。	(1) 言語習得のステップ (2) 音声、言語認識、記憶力	(1) 第二言語習得研究におけるインプットとアウトプットについて具体的な例を話し合いなさい。 (2) プロセス内での自分の傾向を考えまとめなさい。
第５講	インプット仮説	・Krashen のインプット仮説について説明できる。 ・インプット仮説をもとに日本で英語学習を行うことによって期待される効果について説明できる。	(1) Krashen のインプット仮説 (2) インプット仮説を日本の環境で応用する	(1) インプット仮説における「大量のインプット」の量について調べ、現在までのインプット時間と比較しなさい。 (2) インプットの量を増やすためにどんな方法があるか考え交流しなさい。
第６講	アウトプットの役割	・言語習得における「アウトプット」の定期を説明できる。 ・アウトプットが英語習得において、仮説検証の役割を持つことが説明できる。	(1) Swain のアウトプット仮説 (2) 言語処理の自動化	(1) カナダにおける第二言語習得の研究結果が日本人への効果に期待できることについて整理しなさい。
第７講	アウトプットの質の向上	・言語の化石化 (fossilization) について、具体例を挙げて説明できる。 ・アウトプットを増やすことが、英語学習者にとってど	(1) 言語の化石化 (2) 言語の自動化	(1) ４技能のうち、リスニングとリーディングにカを入れた場合起こりうる懸念について議論しなさい。

		んな効果があるか説明できる。		（2) アウトプットによるフィードバックの経験を交流しなさい。
第８講	動機付け	・「外発的動機付け」について、自分の経験を元に説明できる。 ・英語学習の動機付けが、自分の学習経験においてどのように変化したか説明できる。	（1） 努力と才能 （2） 動機付けの継続	（1)「天才」と呼ばれる人の功績が、才能か努力か、その要因について割合をグループで議論しなさい。 （2) 継続的な動機付けの為には何が必要かまとめなさい。
第９講	道具的動機付けと総合的動機付け	・動機付けを高める方法の効果の強さについて、自分の経験をふまえて説明できる。 ・「動機づけの伝染」について、それぞれの経験をふまえて説明できる。	（1） 大学生の英語学習の動機付け （2） 動機付けと環境	（1）道具的動機付けの例を書き出し、グループで比較しなさい。 （2) グループ内で、英語学習の動機を出し合い、自分にとっての重要度を評価しなさい。
第10講	学習の動機付けと GRIT	・「GRIT」について具体例を挙げて説明できる ・英語において GRIT がどのような場面で関わるのか説明できる。	（1） GRIT スケール （2） 英語学習と GRIT	（1） それぞれの GRIT をスケールに当てはめて計算しなさい。 （2） GRIT が企業の採用の場面でも重視される理由について議論しなさい。
第11講	言語習得のための学習方略	・長期記憶と短期記憶について説明できる。 ・長期記憶の量を増やすのに効果的な「リハーサル」について説明できる。	（1） 長期記憶の量を増やす （2） 関連付けた記憶	（1) 7±2 が「マジカルナンバー」であることを試し短期記憶について議論しなさい。 （2) 関連付けた記憶とそうでない場合を比較し、その効果を議論しなさい。
第12講	効果的な英語学習法	・自分が行ってきた英単語の記憶方法を、直接方略と間	（1） メタ知とメタ認知	（1） 英単語をどのように覚えた

		接方略に分類して説明できる。 ・メタ認知を育てるための学習方法について、効果的と考えられる物を一つ考えまとめる。	(2)　間接方略と直接方略	か、そして効果的だった方略について議論しなさい。 (2)　グループで出し合った方略を直接方略と間接方略に整理してまとめなさい。
第13講	メタ認知トレーニングと英語学習	・メタ認知トレーニングの 3 つのプロセスを、第二言語取得のステップに当てはめて説明できる。 ・自律した学習者像について、自分と最も重なる部分について説明できる。	(1)　メタ認知トレーニング (2)　第二言語習得論とメタ認知 (3)　自律した学習者	(1) ペアになり、プランニングとモニタリングを組み入れたスピーキングメタ認知トレーニングを行い、評価しなさい。 (2) 自律した学習者とは、具体的にどういう姿と捉えるかをグループ内で議論しなさい。
第14講	解釈の違い	・英語の学習スタイルの多様性について交流したことをもとに説明できる。 ・単語学習の様々な方法を知り、自分にとって効果的な方法について、理由と共に説明できる。	(1)　見え方の違い (2)　カレーのオニオンモデル (3)　単語学習と性格	(1)　同じ物が個人によって見え方が違うことを体感し、個人の違いを考なさい、 (2)　単語の覚え方について交流してまとめなさい。
第15講	個性に合った学びのあり方	・様々な学習の方法について実際に行う中でそれぞれの効果を説明できる。 ・第二言語習得に影響を与える学習者要因について、自分に関わると考える物について説明できる。	(1)　内向性と外向性 (2)　長文読解の学習方法	(1) 長文読解を速く正確に行う方法をグループごとに考えて提案しなさい。 (2) 自分に合った学習方法をまとめ、今後の英語学習の目標を書きなさい。